ニューヨーク遊学行程表（7/18～8/10）

香賀万里和

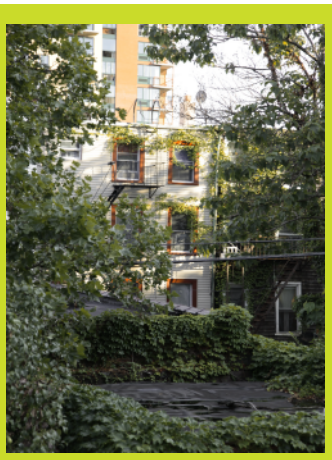
日付	主要日程	活動内容
7月18日	JFK空港到着	到着後タクシーでアパートへ
7月19日	ICP B&H	ICPでは授業内容の打ち合わせ B&Hではフィルム購入など
7月20日	ギャラリー	ICP　常設展を鑑賞
7月21日	撮影	地下鉄をテーマにした作品撮り
7月22日	撮影	地下鉄をテーマにした作品撮り
7月23日	撮影	地下鉄をテーマにした作品撮り
7月24日	撮影	マンハッタンのストリートをテーマにした作品撮り
7月25日	撮影	マンハッタンのストリートをテーマにした作品撮り
7月26日	ICP	ワークショップ
7月27日	ICP	ワークショップ
7月28日	ICP	ワークショップ
7月29日	ICP	ワークショップ
7月30日	ICP	ワークショップ
7月31日	撮影	ワークショップで出た課題　クラスメイトと共に課題を仕上げる
8月1日	ICP	ワークショップ
8月2日	スタジオ	Oboshi yuji氏の撮影アシスタントを行う。
8月3日	ニューヨーク～ボストン	ニューヨーク～ボストンへバスで移動　ハーバード大学院に在学している ファッションデザイナーDawn Mostow氏にインタビュー
8月4日	ボストン～ニューヨーク	ボストン～ニューヨークへバスで移動　ボストン市内を撮影後、 ニューヨークで撮影
8月5日	撮影	ブルックリンをテーマにした作品撮り
8月6日	撮影	コニーアイランドテーマにした作品撮り
8月7日	グッケンハイムミュージアム	常設展鑑賞
8月8日	MOMA	常設展鑑賞
8月9日	JFK空港発	
8月10日	成田空港着	

「過去と未来の写真文化」

遊学期間２０１０年７月１８日～
２０１０年８月１０日まで

香賀　万里和

私の遊学のテーマは写真。
今回は彼らとの違いを見つけると共に過去と未来の写真文化を探ってきました。
彼らの多くは写真の中に自分を写しこんでいます。
実際に写り込むのではなく、 自分自身のこだわりの部分を一枚の写真に入れる事により
オリジナリティーを創り出していました。
彼らの多くは一つの作品に懸ける情熱は惜しみなく、 そして膨大な時間を費やして創りあげます。
そのプロセスにはイメージ、 価値観、 哲学から始まり機材選び、 セッティング、
撮影技術など様々な事柄が折り重なり最後の仕上がりまで手を抜かず創りあげています。
それはデジタルでもフィルムでも変わらないことに気づかされました。
日本ではある一定のラインまでレベルが伸びますが、 なかなかそれ以上を超えることが出来ません。
そしてそれはみな同じレベルで止まってしまいます。 その原因は発想の柔軟性にあると思います。
マニュアルに縛られないやり方は時には大きく失敗しますが、 リスクが大きい分、
成功への反動も大きいのです。 そして彼らは失敗を恐れません。 失敗しても成功で評価される事の方が
彼らの社会では大切な事なのです。
私は今まで思っていた写真の価値観の再確認と共に、 意見を交わすことによって新たな考え方、
技術、 価値観を学ばせて頂きました。 今後の自分のキャリア、 自信へと繋がる事を確信しました。
今回の遊学に関わってくださった皆様、 本当にありがとうございました。
遊学で得た経験は特別なものであり、 短期間ではありましたが皆様の協力で色々な経験ができた事が
大きな財産となりました。
今後この経験を多くの人々に伝え、 沢山の若者が世界を目指し、 国際的な視点から自分や日本を
見つめていただきたいと思いました。



2010年7月26日～8月１日

International Center of Photography

Personal Style

Through Creative Lighting

ICPでは世界中から生徒が集まり、写真技術のレベルを高めています。
今回私の参加したクラスでは生徒12名。
フランス、ベルギー、ベネズエラ、インド、ニュージーランド、
ウクライナ、サウジアラビア、アメリカと多国籍のクラスでとても
刺激になりました。
今回の講師E.J.CAMP氏はこれまでの仕事や作品の全ての技術と知識、
エピソードなどを我々に教えてくださいました。
生徒全員が各国でフォトグラファーとして活躍しているだけあり、
授業内容も洗練されており、さまざまな技術を習得しスキルアップになりました。
講師、クラスメイトと共に写真論や今後の写真文化と自分達の価値観など
意見交換も行いながら学びました。

多くの機材は日本と同じですが
使い方のアイデアが日本と違いました。

一つセットを組むのにもじっくり時間
をかけ、 どうするために何が必要か？
議論しながら作業を行いました。

2010年7月19日～7月25日
8月　2日～8月　8日まで

ニューヨークのフォトグラファー達と

Photographer　Yuji Oboshi（YU+MA）

今回遊学中にニューヨークで活躍するphotographerの
Yuji Oboshi氏の撮影に1日アシスタントとして参加させていただき、
最前線の撮影現場を体験させていただきました。

Photographer Jamein

ジャマイカ出身。フィルムカメラで
ニューヨークのニューカルチャーを
追い続ける。１枚のフィルムに
何度も露光する多重露光を得意とし、
芸術的作品を得意とする。

Photographer Louis　Mendes

多くのハリウッドスターを撮影する傍ら
ニューヨークの街角で40年以上人々を
撮影し続ける彼は70年前のカメラを現在
も使い続ける。フィルムで残す大切さを
教えてくれる数少ない現役フォトグラファー。

Photographer Ricardo Beas

カリフォルニア出身。アシスタントを終了し。
現在フォトグラファーとして活躍。
雑誌関連の仕事はほぼデジタルで行うが、
作品作りはフィルムで行う。

ニューヨークでは多くの人々が写真に興味を持ち、写真が芸術として確立し、
文化として受け継がれるニューヨークの街に大きな魅力を感じました。
この街が持つエネルギーは多くのアーティストを育て、支え続ける要因だと感じ取ることが出来ました。